

THE 脊椎エコー

知るほどにもっと使いたい、 診療を底上げするコンプリートガイド

岩崎 博

Hiroshi IWASAKI

和歌山県立医科大学医学部
整形外科学講座

2017年に運動器エコーと出会い、脊椎エコーにはまってしまいました。脊椎脊髄疾患に対する脊椎エコー下のインターベンション、その診断的治療としての有用性に魅せられました。

しかしながら現在、運動器エコーに関する書籍や特集が次々と発刊されるなかで、脊椎エコーに特化したものが少ないことを悲しく思っていました。そのような折に、特集の機会を頂戴することができました。ありがとうございます。

脊椎エコーを行えば行うほど自分の解剖学的知識の乏しさに気づいた経験から、「脊椎エコー解剖の頸肩腕部」を村田鎮優先生に、「腰殿部」を齊藤正佳先生、面谷透先生にお願いしました。解剖の知識が増えるとエコー画像がより鮮明に見えてくるはずです！

外来診療で必要な脊椎エコー下注射については、「頸部痛に対して」を岩田秀平先生、「頸椎神経根症状に対する治療時の簡便な描出法」を石元優々先生、「肩甲帯の疼痛に対して」を石川圭佑先生、「胸背部痛に対して」を寺田哲先生、「腰痛に対して」を片山裕貴先生、「腰部・単径部痛に対して」を高田知史先生、「腰椎神経根症状に対して」を永野龍生先生にお願いしました。これで貴方も脊椎エコー下に診断的治療を行いたくなったはずですよ！そしてそのためにも問診・身体診察・各種画像読影の技術が重要であることに気づくはずです！

当初脊椎エコーは、術中の限られた用途にのみ使用されてきた歴史があります。「現在の術中脊椎エコー」に関して佐々木克幸先生に執筆をお願いしました。外来診療での脊椎エコーの使用範囲が拡大し、機器の性能が向上した今だからこそいろいろな使用法が生まれてくるはずです。あなたの術中脊椎エコーのアイデアは？

運動器の他部位に比較し、もしかすると脊椎エコーは遅れているのかもしれません。遅れの理由はエコーの利点である動きを捉えることかもしれません。つぎはこの部分に迫る特集が組まれることを祈念しております。

執筆をご快諾いただいた、私が尊敬する先生方の、脊椎エコーに対する思いが詰まった本特集は、皆様の参考となりさらなる知識・技術の向上に役立つことは間違いありません。そしてこのことにより、脊椎エコーが日常診療そして手術に欠かせないものになると確信しております。